

博物館だより

No.126



平成29年5月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

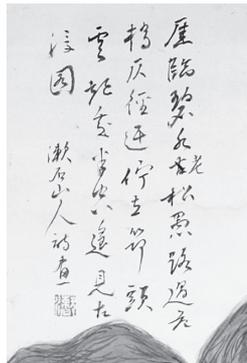
博物館新展示・ここに注目!

小宮豊隆資料

「漱石コレクション」

Vol.13

今年夏は夏目漱石生誕150年。没後100年の昨年に続き、文豪ゆかりの事柄は注目の的。博物館所蔵の「小宮豊隆資料」もその一つです。漱石の愛弟子で町出身の文芸評論家が愛蔵した、漱石ゆかりの逸品をご紹介します。
●夏目漱石画「臨崖碧水図」大正三年
漱石がリラクゼーションを兼ね



▲左:画幅全体 右:画賛部拡大

ねて画作に熱中し、晩年はプロ級の腕前に達したことは前回ご紹介したところですが、その実力のほどを示すのが本作です。緻密に描かれた山中の伽藍や山水の姿は幻想的で、これに漱石得意の漢詩を賞として書き加えることで芸術としての完成度がより高められています。小説ではリアリティを追求した「写生文」的作品を創作し続けた漱石は、非写実で幻想的な南面を「でたらめが描けるのでいいじゃないか」と、画作の師と仰いだ門弟津田青楓に語っています。
漱石は小説とは真逆の世界観が広がる絵を描くことで、現実世界とのバランスを取っていたのかもしれない。

◆講座教室催し物ガイド 5月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】 5月6日(土) 9時30分
- 【古文書講座】 5月13日(土) 10時00分
- 【古典かな講座】 5月20日(土) 9時30分
- 【みやこ学講座】 5月27日(土) 10時00分

※見学会等は別途ご案内します
※日程等変更となる場合があります

文化遺産ボランティア養成講座(第2期)参加者募集!

今期講座は実際にガイドをしたり、文化財の管理作業を行うなど実践的な内容です。関心とやる気があれば町外や今期からの参加も可能です。あなたも「町のお宝の魅力」をアピール＆ガイドする取組みにご一緒しませんか!

※6月から第3土曜午後(2H程度)を基準に開催。申込時に詳細案内します
※申込先 博物館 ☎33-4666

◆博物館友の会情報 博物館友の会で「楽習」を!

博物館友の会は「故郷を楽しく学ぶ」をモットーに見学会や各種イベントを行っています。関心のある方ならどなたでも参加OK。お気軽にお申込みを!

♪入会の方法

博物館窓口で会費を納入下さい

♪年間会費

個人会員 3000円
家族会員 1名 2000円

♪お問い合わせ先

博物館 ☎33-4666



▲友の会活動の一部:年末恒例行事「三重塔す払い」。こんな行事を含め楽しくやっています

定期総会開催のお知らせ

平成29年度の「博物館友の会定期総会」を次のとおり開催いたします。本年度の活動内容等話し合う大事な会議です。会員の皆さんはぜひご出席ください。

- 日時 5月28日(日)10時00分
- 場所 当館 研修室
- 議事 年間事業計画の審議等
- 記念講演会

『新築築風土記(ふどぎ)』編纂の旅
とみやこ町(仮題)』

美夜古郷土史学校 山内公二氏

3月の業務日誌から

3月19日(日)、文化遺産ボランティア講座(第1期)の最終講が開かれました。ガイドに役立つインタプリテーション(自然・文化情報の通訳/IP)技術を紹介。手作りガイド資料の技を学びました。

3月26日(日)、歴史講座・友の会合同で「歴史たんけんウォークin求菩提山」が行われました。御田植祭直前の山はまだ冬の名残姿でしたが、祭を境に春が一気にやってくる雰囲気満々でした。



▲求菩提山中宮のワイルドな石段を上る参加者



▲IP実践家・原賀いずみさんを講師にmy資料作りにチャレンジ

勝山地区 2

みやこの歴史発見伝 97

みやこ町の古い地名 8

今回は勝山地区の古い地名の二回目です。

仲哀隧道

仲哀峠の名称は、仲哀天皇がこれを越えたという伝説にちなみます。仲哀隧道は明治二十三年（一八九〇）に開通しましたが、隧道が開削された谷には仲哀天皇腰掛岩など、同天皇にまつわる伝説があります。また、峠は古くは大宰府と豊前地方を結ぶ官道の一つで、北部九州の主要道路でした。

現在、仲哀隧道は国の登録文化財に指定されています。

菩提

菩提は仲哀隧道の東側入口の一带に所在します。地名は菩提山四十九力院の本寺があったことに由来するとみられています。菩提廃寺は奈良時代に建立された古代寺院で、県の史跡に指定されています。また、菩提廃寺の南方に位置する宝積寺には町指定の有形文化財木造菩薩形立像があります。



▲菩提廃寺

御手水

御手水は菩提の南方の小谷に立地します。地名の由来は、「村内に名水あり、景行天皇の行宮近き地なれば、此水を御手水にも物賜ひしよりの名なるべし」（『京都郡誌』）とか、「往古大原足尼命ニ・・・此水ヲ献ス。依テ御手水ノ井ト云。後世因テ邑名トナル」（『御手水村誌』）などの説があります。しかし、清水をいっショウズに上記の伝説が付けられ、その頭に「御」がついたものかもしれません。

図師

図師は御手水の東方で、御所ヶ岳山稜の北麓に立地します。

地名の由来は、『豊前志』によると、景行天皇の御返子があつた地で、今は図師と書いていると伝えます。しかし、荘園などの図面を描く図師の居住地に由来する地名ともみられます。

久保

久保は県道椎田・勝山線と国道二〇一号線の交差点の東方に位置します。現在、上久保・中久保・下久保などの集落が広範囲に展開しています。

地名の由来は、神祭に使う土器クボテを当地で作るから（『豊前遠鏡』）とも、毎年十月当地の埴土を以て祭器を焼き、上久保鎮座の大原八幡神社に奉獻したため（『大原八幡神社記』）ともいわれますが、窪地に発する地形地名とも考えられています。

観応三年（一一三二）書写の『安楽寺領注進状』に「窪庄地頭職」「窪郷内野田光行名」とみえ、庄園と並び同名の郷が存在していたと推定されています。

曼陀羅寺が所蔵する絹本着色当麻曼荼羅図は県指定の有形文化財です。

箕田

箕田は久保の北方で、長峡川

の流域に所在します。

地名の由来は、ミタは御田を意味し、皇室の直轄地か、神社の神田に由来します。

箕田周辺には古墳が数多く分布し、特に扇八幡古墳は県の史跡に指定されています。

上田

上田は国道二〇一号線を挟んで、箕田の東方に位置します。

地名の由来は、上田は高田と同義で、河川の合流点に水流の衝突によって生じた微高地がもとになって成立した地名であろうと考えられています。

黒田

黒田はみやこ町役場の北方で、国道二〇一号線に沿って、現在上黒田・中黒田・下黒田などからなっています。

地名のクロは畔・畦で、土盛りあるいは塚・古墳を意味します。地名は地内に六世紀末から七世紀初頭に築造された代表的な巨石横穴式古墳である綾塚・



▲綾塚古墳

橋塚などの古墳が多かったことに由来するとみられます。寛永年間（一六二四～四五）に上黒田・下黒田の二村に分立し、さらに元文年間（一七三六～四一）に中黒田が分かれました。

綾塚古墳・橋塚古墳はともに巨石を使用した全国的にも屈指の横穴式石室をもつことから、国の史跡に指定されています。綾塚古墳の石室の奥には家型石棺が安置されています。また、六世紀中頃に築造された庄屋塚古墳は京築地域では三番目に大きい前方後円墳で、町の史跡に指定されています。さらに、元禄九年（一六九六）に創始されたと伝えられる黒田楽は町指定の無形民俗文化財です。



▲黒田楽

「みやこ町の古い地名」シリーズは今回で終了となります。ありがとうございます。

（末永弥義）